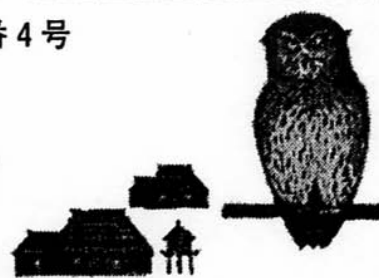


財団法人アイヌ民族博物館 北海道白老町若草町2丁目3番4号

# コタンメール

第17号 平成17年7月20日 発行



## 外国からのお客さま、ぞくぞく続々と

### 差別問題状況調査の国連人権調査員

7月9日(土)、国連人権センターのドウドウ・ディエン氏(セネガル)が、アイヌ民族の差別の実態調査のため来町、当館ポロチセを会場に懇談を行いました。

町内からはウタリ協会白老支部会員10名が参加し、自らの体験や今後行ってほしい取り組みについて意見を述べました。その後北原学芸員が、現在のアイヌ民族の権利回復のための取り組みについてを概略説明し、日本各地に生活する人びとの中でも差別のされ方や受けとめ方の違いがあることなどを話しました。



報告を受けるディエン氏(左)

### World Learning

アメリカのNPO団体主催の国際生活体験事業「ワールドラーニング」に参加しているアメリカの高校生が、7月11日と14日の二班に分かれてそれぞれ来館し、アイヌ文化体験学習を行いました。

11日は13名、14日は10名が来館し、オヒョウの樹皮から繊維をとり、撚り糸を作る作業やムックリ演奏体験、トンコリ演奏観賞を行いました。伝統料理食体験ではイナキビご飯が好評で、多くの生徒がおかわりをしたほどでした。

午後からは、自分で撚った糸を、弦に使用しての弓矢作体験、無事に作業を終えられた感謝のお祈りに参加。

一日いっぱい滞在しての、充実した体験学習にみんな満足気でした。



ムックリ演奏体験のようす

### オーストラリアからアボリジニの中高生

オーストラリア西海岸から来たアボリジニを主体とする中高生一行が、愛知万博を訪れた後、苫小牧駒澤大学の学生と交流目的で来道した際に当館を訪れました。

一行は、古式舞踊を見学後、ポロチセで囲炉裏を囲み、中村館長からアイヌ民族の現状についての話を聞きました。館長の「世界の先住民として共に手を取り合って協力していきましょう。」との言葉に対し、先生から「ぜひ協力したい」というメッセージが送られました。

帰り際に、中学生の女の子からアボリジニの伝統的な絵が描かれた小石をプレゼントされ、ニコニコ顔の館長でした。

## お孫さんの作品を見に

6月20日、積丹町の戸来<sup>へらい</sup>富治さんご一家が来館されました。

お孫さんが町内にお住まいで、昨年萩野小学校の卒業制作で「風の神とオキクルミ」を版画にまとめる作業に取り組みました。

今回は、お孫さんの作品を見てみようということで来町され、嬉しいひとときを過ごしていかれました。



作品を見る戸来さん一家

## 外国からのお客さま・個人での来館

### ● シャーリー・アンドリュースさん（アメリカ）

6月21日来館

キューバにいる祖父母の文化伝承について倉部さん（伝承課職員）に語る。



シャーリー・アンドリュースさん（左）  
オトウタヌチセにて

### ● リー・ユンジュンさん（台湾）7月2日来館

コロンビア大学生。ユカラ（英雄叙事詩）について勉強しに。

### ● マリナ・オシポヴァさん（ロシア）

7月6日来館

ハバロフスク教育大学の英語教師。アムール河下流の少数民族調査研究のため、交流していたアイヌ民族について勉強するために。



ファビエンヌさん（左）館長室にて

### ● ファビエンヌ・ジェフロイさん（フランス）

7月17日来館

アイヌ語の伝承がどのようになされているのか、アイヌ文化を教える学校があるのか、どのような取り組みをしているのかを調べに。

## 編集後記

博物館入り口横に設けているえさ台にエゾリスが来て、ひまわりの種を一生懸命食べている姿がとてもかわいらしく、あわててカメラを取りに行き、写真を撮りました。ところが、その日のアイヌ語教室で、エゾリスはアイヌ語でトウスニンケと言って、アイヌ文化では縁起の良いものではないことを知り、あらためて、文化が違えば価値観も違ってくるということを感じました。 木田瑞恵

## ● 8月の行事

8 月	1日～ 6日	月～ 土	千葉伸彦氏によるトンコリ演奏 2時15分の古式舞踊公演時
	12日	金	アイヌ語教室「弁論大会にむけて5」
	21日	日	アイヌ語教室「アイヌ語入門4」
	26日	金	アイヌ語教室「弁論大会にむけて6」

- コタンメールはホームページでも見られます。  
THE AINU MUSEUM アイヌ民族博物館

URL : <http://www.ainu-museum.or.jp>  
E-mail : [museum@ainu-museum.or.jp](mailto:museum@ainu-museum.or.jp)